

# 草木染教室

2006.3.12 (日) 10:30~15:30  
松山市考古館および総合公園  
参加者 20名



小雨の降る中、第4駐車場に集合してもらいました。講師の藤原さんから、1日の流れを説明してもらいました。

今回の草木染教室は身近な植物を使って実施しました。

## 草花探しに出発



自然観察を楽しみながら、どんな色に染まるか創造を膨らませつつ「染まりそうだな〜」と思うものを集めて袋に入れていきました。講師からの説明で、見た目と同じような色に染まるもの、見た目は違った色に染まるものがあることや、同じ植物でも、植物が育った場所・季節によって染まる色が違うことなどがありました。どんな色に染まるのか？ということが染色の面白いところだそうです。イネ科の植物は黄色にヤシャブシはきれいな茶色に染まることの説明もありました。熱心な方はメモを取りながら材料を探していました。植物を採取後、考古館の研修室に移動しました。

## 草木染について学びました

考古館でスライドを見ながらの講師の解説を受けます。まず、藤原さんから「繊維・媒染剤・色の話」がありました。繊維・化学繊維・・・ナイロン、アクリルなど・動物性繊維・・・シルク(昆虫)

- ウール、アルパカ(動物)など
- 植物性繊維・・・綿・麻など
- 染料・顔料
  - 無機顔料 辰砂・群青・墨など
  - 有機顔料 コチニール・ラックなど
- (ハムソーセージなどの肉類の着色にも使用)
- 天然染料
  - 単色性染料 紅花、サフラン、クチナシなど
  - 多色性染料 日本茜、紫根、ヤマモモなど
- 媒染剤
  - アルミニウム塩
  - 鉄塩
  - 銅塩
  - 銀塩
  - 灰 藁灰
  - 木灰

続いて梅木さんから「古代の織物と染色の話」がありました。・卑弥呼の服にもいろいろな染色がされていたのではないかと。・実際に出土した土器に残る繊維の模様や顔料を見ました。青銅の鏡に、繊維がくっついて模様が残っているもの(今から1500年前の古墳時代6世紀ごろのもの)

小澤さんから「染めのデザインの作り方についての話」がありました。今回は、シルクと綿ガーゼのオリジナルのハンカチを作ります。今回の方法は3通りあり、説明がありました。

- ①道具を使わない方法・・・ハンカチを結んで縛る
- ②道具を使う方法・・・ゴムで巻きつける 割り箸を使う
- ③道具を2つ使う方法・・・割り箸とゴム2つを組み合わせる

## 草木染体験



今回は七輪を使用したので火力があまり強くなかったため40分ほど煮立たせて染液をつくりました。ヤシャブシなどがはいた茶色の染液と黄色の染液ができました。染液をザルに不織布を置いたもので濾してから寸胴に戻し、その中に絞り染めになるように輪ゴムや割り箸で模様をつけたハンカチを入れます。七輪の上で煮立たせながら染液がハンカチに染み込むようにかき混ぜます。この時、空気にハンカチが触れてしまうと酸化してきれいな色が出なくなるので空気に触れないように、しかし全体がよく混ざるようにステンレスの棒で中身を混ぜます。煮出し終わると、次は水洗いをして定着を行います。余分な染料を落とし、ミョウバンの中へ漬けます。また10分ほど漬けておき、鍋に戻します。この回数で色の濃さが決まり、ミョウバン漬けるする前と後でも色が変わります。今回は、この作業を3回やります。寸胴→ミョウバン→寸胴→ミョウバン→寸胴です。3回終了したら、寸胴ごとハンカチを洗います。ミョウバンで染料は定着しているので、バケツに水を汲んで洗います。そして、輪ゴム・割り箸をはずして出来上がりを確認します。輪ゴムで縛った柄の部分は上手にできあがると丸ではなく四角に抜けるそうです。お互いに出来上がりを見せ合っていました。ほとんどの人が「楽しめた」「勉強になった」「自分でもやってみたい」「もっと難しいのもやってみたい」という答えが多く、充実した観察会になったと思います。